

坂の上通信

平成三十年六月二十二日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

文化祭 大盛況

来校者数 1256名

6月16日(土)、文化祭の一般公開が行われた。今年も大勢の来場者があり、校内は活気に包まれていた。当日の、各取組をレポートする。

クラス

どのクラスの展示発表も大盛況だった。3

年生は食品バザー、2年生はゲームやお化け屋敷など、1年生は緑日などを中心に行っていた。多くのクラスで



3年生は全クラスで食品バザーを行った(写真は4組)

会長おつかれさま

文化祭終了と同時に、新生徒会がスタートした。任期を終えた生徒会長にコメントを求めた。

皆さん、1年間ありがとうございました。今日までスムーズに行

これから、新執行部が学校を盛り上げ、引っ張っていきます。今年は希望者が多かったため、執行部の枠を増やしました。より大きな力で、様々なことに取り組んでくれるでしょう。学校のために活動してくれる人がたくさんいることを、嬉しく思います。

文化部

胸躍る鼓動

文化部は、それぞれの個性を生かして様々な展示を行った。美術部は作品展示のほか、うちわ等の販売や缶バッジ作りのコーナーを設けていた。他にもあすなろ会のユニバーサルデザインの道具体験、華道部の生け花展示、茶道部のお手前披露、コンピュータ部のオリジナルゲームの展示等、それぞれの部活動の成果や展示が数多く見られた。

文化祭では、今年も鬼城太鼓の皆さんに演奏していただいた。10時からという早い時間に行われたが、迫力ある登場の仕方、中央ギャラーにいた多くの来場客の目を釘付けにした。

鬼城太鼓のチームの中には大人はもちろん小さな子どももいた。幅広い年齢層の中で一体感のある演奏が印象に残った人もいたのではないだろうか。



中には子どもの姿も

を忘れないようにしたい。

講堂内

講堂では、各部のステージ発表が文化祭を盛り上げた。その中で今回は演劇部に話を聞いた。

「今回の劇のテーマは『信じること』。『大人になること』です。キャラクターの繊細な心情をどう台詞で表現するか、その言い回しを考えるのに、苦労しました。」



宮島をテーマにした書は、マスコミの取材も受けた



大人になるという普遍的なテーマを扱った演劇部

編集後記

もうすぐ期末テストが始まる。気持ちを切り替えよう。

美・鈴・鈴・鈴

「おもてなし」という言葉を知らない人はいないだろう。2013年の流行語大賞にも選ばれた、心のこもった待遇のことである。日本の文化として、グローバル企業にも一置かれています。言葉である「おもてなし」は、相手を思う心から生まれる。相手への配慮や気づかい、それらが「おもてなし」という形となって相手に伝わっていく。その意味で皆さんは、今まで誰かに対して「おもてなし」をしたことがあるだろうか。▼自ら心掛けてこそ「おもてなし」であることは言うまでもない。だが、それが「おもてなし」であつたかどうかを決めるのは、自分ではなく相手手が「嬉しい」「ありがとう」と思ってもらえれば、たとえ失敗してもそれは立派な「おもてなし」になる。▼

先日、美高でも文化祭があった。会場にきたお客さんは、喜んでいただろうか。笑っていたらうか。もしそうなら、立派な「おもてなし」が出来たのだらう。(福田紫乃)